

4歳の息子とドーナツ屋さんに行ったときのこと。好きなドーナツを注文し、席について運ばれてくるのを待っているとき、突然息子が自分のコートのポケットをゴソゴソ…。「何しているの?」「○○(息子のあだ名)の手袋どこかな~と思って」「ママのバッグにあるよ」と言って手渡すと、店のなかにも関わらず一生懸命手袋をはめる息子。「どうして店のなかかなに手袋するの?寒い?」と聞くと、「ママの手を暖めてあげようと思って」と言い、小さな手で私の手を包むようにして、片方ずつ暖めてくれたのです。お店に向かう車のなかで、寒くなってきたね、手が凍りそう~と話してきたのを思い出したのでしょうか。最近仕事から帰った私の肩を優しく叩き、「ママ、疲れたでしょう?」と言ってくれることも。相手のことを思いやれるようになったんだな~、と息子の成長を実感した出来事でした。そのあとすぐにドーナツが出てきたのであっという間に手を離し、手袋をその辺に脱ぎ捨てたまま忘れてきた…というオマケつきでしたが…。

(30代女性/H28)



「パパ
ママ、おやすみ~。」
小学生の長男が、妹と弟を連れ
て3人で寝室へ。こっそり寝室
を覗いてみた。10分後、「川」の字。
1時間後、「三」の字。2時間後、「キ」
の字。とつても「寝相のよい」子
どもたち。

(30代男性/H28)

子供が1歳を過ぎた冬、外には初雪がちらほら舞い降りていました。やっと歩けるようになった我が子が窓に張り付いて、目をまん丸にして、こちらを何度も見ては初めて見る雪の感動を伝えてくれました。子供といると「初めて」の瞬間に遭遇することが多いのですが、その姿は10年経った今でも忘れられない出来事です。毎年初雪が降るとその輝いた眼差しを思い出し、心が温かくなります。

(40代女性/H27)

ドラゴンボールにハマっている6歳の息子。生死についても理解が進む年頃。ある夜、「パパ死んだら、ドラゴンボール集めて生き返らせたらいいんじゃない?」と真剣な顔。「まだまだパパもママもずーっとずーっと生きているから大丈夫だよ。」と安心させ寝かしつけました。健やかな寝顔を見ながら、子供のためにも元気で頑張ろうと改めて思った夜でした。

(30代女性/H28)

「毎日がプレゼント」

私は子供から毎日プレゼントをもらっている。それは日々の成長というプレゼントだ。寝返りができるようになった。お話ができるようになった。1人でトイレに行けるようになった。お手伝いができるようになった。子供の日々の成長が私にとってプレゼントを開く時のようにワクワクする。それほど子供の成長というのは親にとって嬉しくそして幸せなものなのだ。

(30代男性/H28)

子どもと将棋をしていて先日初めて負けた。決して手抜きをしたわけではないのに…。悔しさ2割、子供の成長を実感しうれしさ8割!

(40代男性/H27)

私達夫婦は、お互い遠慮なく思ったことを言い合い、子ども前でも容赦ない激しい口論をするのが常でした。そうすると、2歳の娘が「パパ、ママ、ケンカしてるの?」と不安そうに聞くので、「これはケンカではなく、パパとママの考え方が違うだけだよ。」と言い聞かせていました。ある時、原因は忘れましたが、いつにも増してお互い周りも見えないくらい感情的になって、大声でバトル(口げんか)していたら、娘から「パパ、ママ、ケンカしないで~!パパとママは、かみがえかた、ちがう!」と言われ、その一言で夫婦お互い我に返って、冷静になれました。まさしく、「子は鎧(かすがい)」です。

(40代女性/H27)

私と夫は共働きで、2才の娘が1人います。夫が残業で次の日も仕事があり、娘に早く寝てほしかったが夜中の1時になっても寝てくれず、イライラして頭がおかしくなりそうになった時、夫が仕事を中断して帰ってきてくれました。疲れているのに娘と遊んで寝かしつけてくれました。そして、すぐ仕事に戻って行った夫の優しさに本当に感謝しました。私1人で子育てしていると思ってましたが、1人じゃないんだなって実感しました。

(30代女性/H28)

我が子へ…。今までの人生、辛く苦しいこともたくさんありました。でも生きて良かった。あきらめなくて良かった。あなたに会えて心からそう思います。

(40代男性/H28)



息子は2歳の誕生日を病院のベッドの上で迎えました。数ヶ月の入院生活では、大人の私が顔を背けるほどの苦い粉薬を食後に飲ませるだけの治療でした。何とか飲ませようとジュースやアイスクリームに混ぜたりゼリーで包んだり、あの手この手を使ってもベツと吐き出してしまいます。仕方なく、泣き叫ぶ息子を看護師さんと二人で押さえつけ無理矢理飲ませる日々が続いていました…が、その瞬間はやってきました。息子が私の膝の上にゴロンと寝転がり自分から大きな口を開けました。息子の成長した姿に涙が溢れ、ふと周りを見ると同室のお母さん達も号泣。みんなで泣いて、笑って、親子共々成長できた入院生活でした。

(40代女性/H28)

長男が小学校4年生の時に次男が生まれたのですが、それまでずっと一人っ子で育った長男。保育園の頃から妹か、弟か、どっちでもいいからうちに来てくれないかナーといつも言っていて、七夕様や、お月見の十五夜さんなど窓から顔を出してよくお願いしておりました。次男が生まれ、退院の日、家に帰ると…「お母さん見てー」と言って、柱の上の方を指さすのです。「ん？」と思ひ、見上げて見ると、ノートのページを切ってつなげたものでしたが、「○○△△(名前) 200△年△月△日生 体重2110g」と書いて貼ってあったのです。「え～、作ってくれたのー?!」「そーだよ、いーでしょ」と急いで作ったのか?命名紙?でもすごくうれしかったのを覚えています。今でも飾って置いてあります。「いいかげん、とれやー」と言われていますが…。

(40代女性/H28)

子供が生まれて、父親である私に大きな変化がありました。私の世界観・価値観が180度変わったのです。それまで「自分が一番大事、自分のこと最優先」だった私に、「自分のことより、もっと大切なもの」ができたのです。私は、息子のためなら、自分の空腹を我慢して、食べ物を口に運んであげたり、お金を節約して息子が喜ぶモノを買ってあげたりするようになりました。息子が喜ぶ顔がみたい…その一心で。こんなことは、それまでの自己中心的な人間だった私には考えられないことでした。「自分を犠牲にしても、大事にしたいもの」この世の中にそのようなものが本当にあるんだ、と教えてくれたのが、私の息子です。そして、子育てを通じて、広く他人への思いやりや労りといった「人としての優しさ」が、自分の中に少しずつ育ってきたように思います。息子は私を、人間的に成長させてくれたのです。大切なことを教えてくれた息子。そして、その息子を元気な身体で産んでくれた妻に、今も感謝の気持ちで一杯です。

(50代男性/H27)



私の家族構成は、妻、長男(大学生)、次男(小学1年)、娘(4才)となっています。今年の4月より単身赴任となり、札幌へまだ手のかかる小さな子供達も残してきました。とある日、自宅へ帰省すると、長男のある変化に気づきました。これまで、休みの日は自室にこもっていた長男が、リビングにおり、弟と妹と遊んで、自分のことしか考えていないと思っていた長男は、父の不在に、発起するものがあつたのでしょうか。私の単身赴任をきっかけに、思わぬ成長を感じさせてくれた長男に、感謝の念を抱くとともに、自分の居場所がなくならぬよう、家族と過ごす時間を大切にしなければと危機感を抱く今日この頃です。

(40代男性/H28)

我が家の長男には「滑り台の時代」「魚の時代」「野球の時代」があった。「滑り台の時代」は公園を素通りすることはできなかった。下で見ていたことが多かったが、いっしょに滑ったこともあった。「魚の時代」には家には魚の図鑑が並び、お出かけは水族館と決まっていた。「野球の時代」は大学卒業まで続き、観客席からマウンドに立つ子の姿を見ていた。大学を卒業し、就職説明会に行った彼から久しぶりの電話があった。報告したかったのは説明会のことではなく、電話をかけている場所が懐かしの公園の滑り台の上であること、これから帰りがけに水族館に寄って行くこと、であつたらしい。

(60代男性/H28)

2人の子供達がまだ小さかった頃、母の日に松前に行った時の事です。子供達がジュウタンの様に敷きつめた桜の花びらを両手に抱えて、お母さん母の日おめでとうと私に降りかけてくれた事が私の大事な大事な思い出です。

(60代女性/H28)

私と息子は同じ小学校を卒業しました。家の中で歌を口ずさむのが大好きな私たちは時として、校歌を熱唱する時があります。そんなとき小さな幸せを感じています。

(40代女性/H28)

長かった息子の野球生活も、高3最後の夏をこの間終えました。妻は背番号をはずしては泣き、大変だった毎日のユニフォーム洗濯がなくなったと言っては泣き、毎日の体作りを考えた献立を考えなくてもよくなったんだと言っては泣いていた。

(40代男性/H27)